(2) 子どもの反応

とにかく，子どもの反応，発言を大事にしたい。その真意を読みとると共に，どんなものでも，関連させ生かすよう努力することである。また，誤ったような答えでも，それを分析し，そこから出発して，のばすことができるし，原因をしらべていけば，よい指導の方法を見つけ出せるだろう。

V おわりに

前に触れたこともあるが，「想像読み」の指導について考慮したい点について述べてみたい。

一つは，事実のみを追う子どものいることである。あまりにも，理ぜめな疑問を持つ子ども，いわゆる，感想的な認識の不得意なものの指導をどうするか。

2つは，大きな事件が起きないと，おもしろくないと考えるタイプの子どもの取扱い。このような子は，文章をていねいに読まないようである。

3つは，勝手な読み，文脈から離れたり，或る部分のみを拡大し過ぎたりする傾向のもの。

4つは，これと反対に，感じたり，心を動かしたりすることの少くない子どもなどの導き方。

これらの，どの子にも，この段階までは，共通に読みとらせたいというねらいを設定すべきである。そのねらいに到達するために，ことば・文，語い的・文法的な形，文章の構造などのぎんみを通じて行うことが大切であろう。

ひとりひとりの子どもの読みとっているなかみは，結果的には，どうしても微妙な違いが生じるのだからといって，もちろんはじめから，自由に，勝手に読んでよいとはならない。

共通な点まで読みとった上での，各自のもちあじは，大切にしていくのが至当であろう。

（研究・相談部　芳賀常夫）

参考文献

○ 国語科読解法指導細案　（明治図書）
○ 教材国語　（明治図書　1976・12月号）
○ 季刊　国語科研究資料　7
○ 読解・読書指導事典　（第一法規）